



歯科医・彌勒寺寛之の 後悔しない 歯科治療の受け方

第18回 「海外歯科ボランティア ～その1～」

こんにちは。土沢デンタルクリニック院長の彌勒寺です。まずは、東北地方太平洋沖地震に罹災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。一刻も早く生活の基盤が回復されること、お祈りしております。

私は2月9日から13日までの間、フィリピンにて行われた歯科ボランティア活動に参加してきました。参加の動機は今から約6年前、東京医科歯科大学の研修医だった時にインドネシアのスマトラ沖地震が発生し、歯科医師として現地に行って災害援助するチャンスがあったのですが、当時は今のような金銭的に恵まれた研修医制度はなく、昼は研修医、夜はアルバイトドクターとして働いてもなおギリギリの生活だったので、断念せざるを得なかったという過去の後悔があったからです。その後も勤務医の時は休みが取れず、歯科医院開業後は借入金（開業資金）の返済などがあり、なかなか参加できなかったのですが、子供も生まれて今後子育てをしていく上で、困っている人に親切にしたり、助けたり、他人を支援することの大切さを親が身をもって行動で示し、その背中をみて育ててほしいと思ったこともあり、おかげ様でようやく参加することができました。これより数回にわたり、海外歯科ボランティア体験をレポートしたいと思います。

2月9日の出発日、成田空港団体待合室にて団結式とメンバー紹介が行われました。ボランティ

アのメンバーは総勢約50名で歯科医師、歯科衛生士以外に大学生や一般の方も参加されていました。今回の活動場所はフィリピンのセブ島というところでしたが、現地ではセブ歯科医師会のフィリピン人ドクター、日本人の青年海外協力隊の方々も協力してくれました。特に道中親しくさせていただいたメンバーは20代の若い方が多く、若いうちからこのような取り組みをされていることに感心しました。



成田空港での団結式

4泊5日の日程のうち、初日と最終日は自宅から成田空港までの高速バスと飛行機移動（自宅から片道約8時間）のみのため実質3日だったので



フィリピン航空

すが、診療は2日行ない、残り1日は現地の里子の子どもたちと触れ合うイベントに参加しました。はじめセブ島と聞いた時、約4年前に妻と観光旅行で行ったことがあったので、いわゆるリゾート地のイメージがありましたが、実際現地の患者さんと接するとやはり日本とは比較にならない途上国の生活環境で、生活背景が口腔内にも表れていました。（次号へ続く）



～著者プロフィール～

土沢デンタルクリニック院長 彌勒寺 寛之（みろくじ ひろゆき）1979年東京生まれ
住 所 宇都宮市本丸町11-12 T E L 028-634-5141 (URL) <http://tda86.com>
所属学会

日本口腔インプラント学会 日本歯科審美学会 日本歯周病学会
日本小児歯科学会 日本ヘルスケア歯科研究会

※学会で得た知識を活かして、個人的に無料相談室を開設しました。

お口のことで疑問に思っていることなどがありましたら、お気軽にご相談下さい。
当クリニックのホームページからメールで受け付けています。

（この無料相談室は予告なく終了することがありますので、ご了承下さい。）

